

第1回まちなかのぎわい創出円卓会議議事録

議 題	まちなかのぎわい創出に向けた取組について		
協議日時	平成30年10月23日(火) 13:30~15:30	会 場	三条別院旧御堂
出席者	<p>川口委員、長野委員、小林委員、長谷川委員、村山(宥)委員、藤井委員、高橋委員、吉田委員、水沼委員、結城委員、松原委員 (欠席)久野委員、井上委員、村山(伸)委員 國定市長(あいさつのみ) 渡辺理事兼市民部長 生涯学習課 恋塚課長、笹倉課長補佐、今井主任、澤崎一般任用主事 地域経営課 山村課長、新田課長補佐、佐藤係長、藤田係長、三方主任 健康づくり課 村上課長兼スポーツ振興室長 商工課 澁谷主査、泉田主事 小中一貫教育推進課 土佐統括指導主事 政策推進課 竹田主任</p>		
傍聴者	三條新聞社、新潟日報社、越後ジャーナル社		
概 要	<p>(司会：生涯学習課課長)</p> <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市 長：あいさつ(あいさつ後退席) ・委員及び事務局員の自己紹介 <p>2 議事</p> <p>(1) まちなかのぎわいに向けた取組について</p> <p>市民部長：資料①について説明 地域経営課長：資料②について説明 生涯学習課長：円卓会議では議長は置かず、コーディネーターとして川口先生にお願いしたいが、異議はないか。 (異議なしの声) 生涯学習課長：それでは、川口先生にお願いします。 川口委員：まちなかのぎわいをどうやって創出していくか、人が自然に歩いていくまち、ということであるが、自分自身も集客とか都市を考える時に、「歩き」というのは大事なことだと思っている。各委員のお考えをお伺いしたい。 小林委員：対象エリアは300m、31年度にスポーツ・文化・交流複合施設が完成するが、そこは含まないで、「まちなか」といっているのか。総合計画では「まちなか」をうたっているが、商店街を含めてエリアが狭いのではないか。エリア設定の考えを聞きたい。 市民部長：スポーツ・文化・交流複合施設は、相当の集客が考えられ、にぎ</p>		

わいが想定される。このにぎわいをまちなかにどう波及させていくか、をこの会議で議論頂きたいと思っている。そして、エリア設定は、にぎわいを可視化し広げていくために、むしろ狭めた方が取り組みやすいと考え、そこでのにぎわいを外へ広げていくことを考えている。これについても議論いただきたい。

川口委員：にぎわいの促進エリアということか。

市民部長：このエリアの取組を徐々に広げていくことがまちなかにぎわいの創出の近道と考えている。

小林委員：三条市全体、特に中心市街地の活性化を考えた時に、ここだけ促進エリアとして広がるのか、という疑問は残る。

藤井委員：まず、このエリアからということだが、ここには壁がない。八幡町とか別院とか想定していると思うが、これが南側にくれば商店街へ、北側にも広がるかもしれない。そういう意味では、集中させることはベストではないかもしれないが、策としては考えられる。

吉田委員：各町内が元気になれば、全体も元気になる。八幡町では、高齢者を一歩外に出すことを考え、庭先に花を植えて、花に水をやるために外に出る、それが小路につながって、そこには八幡様がある。八幡様には公園もあり、子どももいる。各町内が元気になり、一つの輪になれば、このエリア全体が元気になると思う。花を通しての交流が一歩外に出るきっかけとなった。全体ではなく町内の目標を決め、その町内にあった方法を行政から指導してもらえると良い。

松原委員：久しぶりに三条のまちを歩いてみたが、誰も歩いていなかった。日常的に歩くには、条件がある。一つは住むこと。空き家などを若い人がリフォームして住む。子どもは高齢者を元気にしてくれる。とにかく、人がいることが大事。二つ目は、基本は民間施設の活用。民間が活躍できる場を設ける。三つ目は、コミュニティを形成する。四つ目は、車の問題。今より厳しい交通規制で歩くことにつながる。

結城委員：どんなにぎわいなのか、誰のにぎわいなのかを明確にする必要がある。高齢者が歩くまちと若者が歩くまちではやり方が違ってくるし、若い人なら、エリアは広がる。施設も変わってくる。また、市内外の人を対象にするなら、外への情報発信は重要である。

水沼委員：本寺小路を夜よく歩く。昼はさみしい。狭いエリアでまず集中し、昼間をどうするのかを考える必要がある。

長野委員：誰にとか目的が大事。例えば、買い物という目的があれば人は来る。買物の目的を少し変える。例えば、えんがわのイベントで外から車に乗って人が来る。他のイベントがあれば、車を止められる間、そこに向かって歩いていく。誰にとか目的を明確にすれば人は寄ってくると思う。また、11Pに行燈があるが、八幡町の皆さんに行燈を作ることを持ちかけ、高齢者に50基作ってもらった。これは作る目的で、次にイベントで使うことが目的になる。誰にと目的を明

確にし、動く仕組みを作ることが大事と考える。

小林委員：誰のためには、市民のためであって、高齢者とか分けて考えると難しくなる。全体ではないのだから、そこはきちんとしてもらいたい。

長谷川委員：300mのエリアから広げていくことは良いと思う。八幡町の取組はホッとするエリアだと思っている。他は雑草が多いため、まずはキレイキレイ運動からスタートする。美観は大事。

村山(宥)委員：昭和49年、三条はにぎわっていた。車もなかった。だんだん、車が多くなり店舗は郊外へ進出したのかと思う。資料を見ると、駐車場が多い。駐車場を整備する必要があると感じる。

藤井委員：5・6Pにデマンド交通の停留所の記載がない。誰をターゲットにするのか、若い人・家族連れであれば車であり、高齢者等はデマンドもしくはコミュニティバスになる。ターゲットが決まらなると何も出てこない。外からどうやって来るのか、アクセスが大事だと思う。

高橋委員：成功例を作ることが大事で、マーキングも必要だが、そこにはターゲットを絞ること。子どもが行くところには、孫と一緒に高齢者や親が来る。ファミリー層は間違いなく人を呼べる。その人たちが過ごしやすい、楽しい、歩きたいと思うまちを創れば、必ず高齢者にとっても良いまちになる。三条マルシェの課題は、日常ではないこと。マルシェに小さい子どもから来てほしいとされているいろいろなコンテンツを組んでいる。そこに孫と一緒に出掛けたいと思う高齢者が徐々に出てきている。全市民対象はこの後のステージで、今は世代を限定したコンテンツを作らないと成功例にならないと思う。

(2) 現場視察 (15:00～)

三条別院→歴史民俗産業資料館→図書館→ステージえんがわ→鍛冶道場→三条別院

3 閉会